（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立水俣高等学校　令和５年度（２０２３年度）学校評価表（全日制）

１ 学校教育目標

スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえ、校訓「自律・敬愛・創造」のもと、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって主体的に行動する力を備えたグローバルリーダーの育成をめざす。

そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命感と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。

教育スローガン　～「何事にも当事者意識を持ち、夢の実現に向けて挑戦する生徒の育成」～

２ 本年度の重点目標

（１）健全な心身の育成
（２）確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実
（３）ＳＧＨ事業の効果的な継承とグローバルリーダー、熊本を支える人材の育成
（４）保護者や地域社会に信頼される学校づくり

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	特色ある学校づくり	ＳＧＨ事業の効果的な継承	・関係機関とのコンソーシアムの中で、連携事業を効果的に継承し、さらに発展させ、グローバルリーダーを育成する。	・これまでの「水俣ＡＣＴⅠ」の活動を継承しながらも、生徒の興味関心にあわせて地域や大学等と連携しながら体系的に実施できるカリキュラムを確立する。 ・これまで「水俣ＡＣＴⅡ」の外部との連携事業について見直しを行い、継承・変更・新規開拓する。 ・３年間の体系的な活動をいかした進路研究を進める。	B	・「水俣ACTⅠ」の体系的なカリキュラムについて、ブラッシュアップを行い、系統的に取り組むことができている。 ・「水俣ＡＣＴⅡ」において、外部との連携をより密にすることで、高度な探究活動を行うことができた。また校外での探究活動成果の発表機会を増やすことができた。 ・大学の入学試験等において探究活動の成果や培ったプレゼンテーション技術を生かし、進路実現に繋がる生徒が出てきた。
	開かれた学校づくり	保護者・地域との連携	・ＰＴＡ役員を中心にコロナ禍以前に実施していた学校行事を行う。 ・地域と連携し、近隣小中学校へ本校の魅力を発信する。	・各行事について、内容の見直しや、負担軽減の工夫を行い、ＰＴＡ役員を中心に保護者と連携し、学校行事を実施する。 ・水俣環境アカデミアをはじめ、各機関、企業などと連携する。地域行事に参加するとともに小中学校での学習指導及び本校のＰＲを行う。	A	・各行事において、保護者の参加が昨年度を超え、行事が盛り上がるとともに、交通整理などPTAが行ったことで、教職員の負担軽減にも繋がった。また会議の内容を事前に周知することで毎月定例の役員会を33%削減した。 ・総合的な探究の時間や商業、工業の課題研究において、様々なプロジェクトが各機関と連携した。さらに小中学校の出前授業も開催した。
		学校公開と情報発信	・効果的なＰＲ活動により入学者数を増加させる。	・中学生の進路学習で使う際に、情報が得やすいよう、学校ＨＰ内容の整理を行い、SNSの		・現時点において、前期（特色）選抜入試の志願者数は昨年と比較し約７%増加した。 ・学校ＨＰのブログページを検索し

			・中学生や地域への情報発信力を向上する。	活用についても検討を行う。 ・行事や学校独自のプロジェクトなどを、中学生や地域に周知できるよう、市報の活用のほか、新聞やテレビ等でも取り上げてもらう。 ・職員向けのブログ説明会・行事役割分担を決めることで、多ジャンルの情報を幅広く発信する。	B	やすいよう、タグ付けして目的の情報を探しやすいようにしている。ＳＮＳについては県のＳＮＳへの投稿依頼等を利用して発信をしている。 ・水俣市報における水俣高校紹介ページで行事やイベントの紹介を行った。雑誌や新聞などでも多く取り上げてもらった。 ・中学校へむけて高校生の活動紹介や行事の様子を紹介した配付物を作成し、掲示してもらっている。 ・年度当初にブログ投稿について職員向けの説明会を行い、全職員が投稿できるようにした。
	業務改革 働き方改革	業務改革の推進	・慣例となっている各部署の業務を２項目以上は削減、または改善する。	・形骸化した報告様式等を簡略、または廃止し、職員の負担を軽減する。 ・ＩＣＴ機器等を活用しながら、職員間のコミュニケーション、報告、連絡、相談がしやすい職場環境を作る。	B	・職員朝会の形式の改善、教務関係の様式の簡略化を実施し、形骸化していた業務を改善した。 ・学校・保護者間連絡システム「すぐーる」を導入し、欠席連絡対応等の負担を軽減した。簡単な報告等は職員間の校内連絡システムIPを活用した。
			・学校評価アンケートにおいて、昨年比３項目以上評価を上げる。	・観点別評価の視点で各教科担当者が授業を改善し、授業評価を上げる。 ・学校ホームページ等を活用しながら、タイムリーに学校の様子や生徒の活躍を発信する。	C	・学校評価アンケート結果昨年比は、生徒：１９項目プラス、６項目マイナス、保護者：５項目プラス、２１項目マイナス、職員：８項目プラス、１９項目マイナス、であった。生徒の評価は全体的には上がったが、今後は保護者と職員の評価を検証し、上げることが課題である。 ・各担当者が学校行事等の様子を学校ホームページ等でタイムリーに発信した。
		時間外勤務時間の削減	・超過従事時間平均を昨年比１０％以上削減する。	・管理職が定時退勤を実践し、勤務時間内で業務を終了する雰囲気をつくる。 ・部活動計画や方針を学校ホームページ等で示し、顧問の役割分担を明確にし、週末（土日）の従事時間を軽減する。 ・部活動指導員や外部指導者を活用しながら、顧問教師の従事時間を削減する。 ・コロナ禍以前の慣例化した行事等を見直し、削減する。	B	・超過時間が多い職員に対して個別面談を行った。また、業務改善や分担等を呼びかけ、管理職も定時退勤を実践した。その結果、職員全体の超過時間平均は昨年度と比較し、一人当たり約９時間、全体で約２０％削減することができた。 ・部活動計画は学校ホームページ等で周知した。週末の指導や生徒引率に関しては業務を分担し負担を軽減した。 ・今年度から年度当初に外部指導者へ委嘱状を渡し、学校の方針や部活動規定等をきちんと伝えることで、練習時間の短縮や顧問の負担軽減につなげた。 ・コロナ禍以前に実施していたPTA総会欠席者集会を廃止した。生徒の状況や天候等に応じて、オンラインの講演会や式典を実施した。

学力向上	基礎学力向上	基礎学力の定着の向上	・成績等に関する保護者会への該当生徒を５人以下とする。	・考査前学習会を実施する。観点別評価を活用して、生徒個々人がどの観点により重点を置いて次につなげるかを明確にする。	C	・基礎学力の底上げを目標に考査前学習会に加え、長期休暇には補習を実施した。生徒の基礎学力の底上げにつながっているが、保護者会への参加は９人で５人以下の目標には届かなかった。また、職員の負担軽減もあわせて検討する必要がある。観点別評価をすることで、生徒個々人が自分の課題を把握する一助となっている。
	自学力の育成	家庭学習の実態把握と学習意欲の喚起	・学年や学科毎の目標学習時間の設定値を半数以上の生徒が達成する。	・宅習・生活の計画と記録を活用し、担任や教科担当の個別面談で意識の向上を図る。	C	・宅習の調査を6月9月11月の3回実施した。毎回少しずつ向上し、11月は36%の生徒が目標時間を超えたが、半数には届かなかった。学年団との連携を今よりもっと密にして宅習の必要性を伝え、向上につなげる必要がある。
	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	・生徒による授業評価アンケートで７割以上の肯定的評価を達成する。	・実生活を題材にグループ討議やＩＣＴの活用などを含めたテーマで研究授業を実施し、他教科も含めた相互交流を図る。 ・公開授業週間や研究授業にあわあせてスーパーティーチャーを招聘し、研修を深めることで授業力を向上させる。	B	・6月に授業交流キャンペーン、11月に公開授業週間を設定し、職員の相互交流を図った。交流回数は90回を超え、また数学科では研究授業に合わせてスーパーティーチャー（ST）も招聘し、研修を深めることができた。次年度はSTの招聘をより多くの教科で実践したい。 ・生徒による授業評価の平均値は3.4で、肯定的評価は7割以上である。
進路指導・キャリア教育	進路意識の高揚	多様な入試に対応するための指導の充実	・変化する大学入試について研究し、傾向と対策のポイントを職員間で共有し、効果的な指導を実施する。	・入試説明会参加等による情報収集や入試問題の研究を行い、大学入試対策の指導方法について検討する。 ・小論文や面接等の個人指導を実践する。	B	・各学校の入試説明会や教育支援関係の企業が実施する研究会に積極的に参加し、情報収集に努め、指導方法を検討した。小論文については予備校講師による特別講座や本校職員による個人添削を実施した。
		就職希望者への計画的な取組	・就職内定１００%達成に向けた取組を充実させる。	・就職希望者の目標を早期に具体化させるための取組（インターンシップや現場見学や進路ガイダンスなど）を充実させる。 ・ICTを利用した就職に関する情報を共有する。	B	・インターンシップや現場見学など計画的に実施した。また、就職希望者用のクラスルームを作り、情報を提供した。今後は求人票をオンラインで閲覧できるシステムを導入し、活用する予定である。

生徒指導	社会規範意識の醸成	正しい社会規範意識と他者尊重の意識を醸成	・行動や服装を自ら判断し、選択できるようにする。 ・マナータイムにおける再チェック数が回を経るごとに減るようにする。 ・ＳＮＳや情報端末の正しい利用方法を習得する。	・全職員が共通理解を持ってマナータイム時に限らず、日頃の学校生活の中で指導に取り組む。 ・校則の見直しを生徒とともに考え、当事者意識を培い、遵守する態度を養う。 ・年6回のみなまたマナータイムを実施し、時宜にかなった訓話を行う。マナーとして気づき考え行動する力を育む。 ・講話等を通した情報モラル教育を行う。職員にも適宜プリントを配布し、常に新しい知識で指導を行えるようにサポートをする。通年で情報モラル教育を行う。時代に即した合理的な活用の仕方を職員間で検討していく。	B	・校則の変更にも柔軟に対応し、全職員の共通理解はできていた。日頃の学校生活においても気づいた職員がその場で指導に取り組むことができた。 ・本年度も校則に関するアンケートも保護者、生徒ともに実施し、生徒会を中心に協議することができ、当事者意識の醸成にも繋がった。 ・「みなまたマナータイム」は予定通り行うことができた。規則やマナーは理解できているようだが、今後自己管理能力を身につけていく必要がある。 ・情報モラル教育は、講話を実施しながら取り組んだが、職員間で新しい知識を入れ、合理的な活用の仕方を検討していく機会はあまり設けられなかった。
	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立	・５Ｓ活動を行う。 ・遅刻者数を削減する。	・生徒指導部が中心となって登校指導を行い、遅刻者の情報を担任と共有し、繰り返さないように個別指導する。回数が多い場合は保護者にも連絡し、協力してもらう。	B	・掃除には職員、生徒ともに精力的に取り組むことができた。 ・遅刻者は減っているものの、時間に余裕がなく登校している生徒が特定しており、一定数いるので、改善していきたい。学年で情報は共有できた。
	防犯及び交通安全意識の高揚	防犯意識の向上と安全運転の励行	・二重ロック率９９%以上および１００%達成率５０%にする。 ・自転車乗車中のスマートフォンの使用がないように指導する。 ・事故件数を昨年度より減らす。	・登校指導の中で、一旦停止の呼びかけや一列励行の呼びかけを行う。 ・交通委員による二重ロック調査を週３回行い、結果を全職員で共有、公表し、未実施者には指導を行う。 ・交通講話や啓発プリントを配布し意識を高めると共に、事故時の適切な対応方法についてロールプレイを用いて習得させる。 ・自転車通学生にヘルメットの着用を推奨する。 ・原付通学生対象の安全教育を月に１回実施する。	B	・交通委員による啓発活動を不定期で行い、規範意識の醸成に繋がった。 ・週３回の二重ロックの検査に加え、警察署との協同で防犯意識の向上に繋がった。 ・二重ロック達成率 二重ロック率９９．１１% 施錠率：９９．８４% １００%達成率：３１．１８% ・年度当初に事故時の対応の仕方を指導した。適切な対応ができた。 ・自転車通学生のヘルメット着用は継続して推奨していく。 ・定期的に原付通学生対象の安全教育を行い、規範意識の向上に繋がった。 ・事故件数は昨年が５件、今年度は３件であり、目標を達成した。

	自主性、社会性の育成	自主・自立の精神の涵養と生徒会活動の活性化	・全校生徒に学校行事及び生徒会行事に主体的に参加させる。	・生徒会役員と顧問とのランチミーティングを開き、生徒会役員及び庶務の意思の疎通や共通理解を密にし、絆を深めるとともに、学校行事や校則についての議論などを通して生徒の自主性、自立性を養う。 ・学校行事後にはアンケートを実施し、全生徒、全職員の意見を聞き、結果から改善をする。	A	・生徒会役員と顧問とのランチミーティングを開き、生徒会役員及び庶務から多くのアイディアが出てきており、自主的に主体性をもって取り組んだ。また、議論とどまらず、実行に移すことができた。 ・アンケートをとり、回答から部内、生徒会内で協議を行い、改善点を整理することができた。
人権教育の推進	人権教育推進体制の充実と人権意識の深化	校内の人権教育の推進	・学習機会の定期的な設定による生徒、職員の人権感覚を醸成させる。	・人権課題に対しての職員研修を実施する。 ・人権講演会、人権ＬＨＲを実施する。 ・各種校外研修会への参加を通じて職員の人権感覚の醸成を図る。	B	・人権教育主任研修の内容を踏まえ、性的指向・性自認等をテーマにした職員を対象の研修を実施した。 ・「フォトランゲージを活用した水俣病学習」を題材に、有識者を招いて人権講演会を開催した。 ・北朝鮮当局による拉致問題や同和問題、水俣病に関する人権等についてのリモート研修や校外研修会に積極的に参加した。
	人権教育推進体制の充実と人権意識の深化「命を大切にする心」を育む指導の推進	水俣病等に関する人権問題の学習	・水俣病をめぐる人権問題について、各自の意見の発信力を身に付けさせる。	・総合的な探究の時間や校外との連携を行いながら、水俣病等の人権問題学習を通じて、優れた人権感覚の育成を目指す。 ・ポスターセッション等の発表準備を通じて各自の考えを深める。	B	・１学年の総探の時間では、水俣病の歴史や現状についての学習を行い、被害、加害の両方の立場に立って学習するなど、人権感覚を深める取組を行った。 ・２学年の総探の時間では、水銀をテーマにしたグループを作成し、国立水俣病総合研究センターと連携して水銀に関する水俣の取組や水銀条約についての調べ学習とポスターセッションを行った。
		「命」や「生きること」の考察を通した自己肯定感と他者を思いやる心の育成	・全教職員による全ての教育場面での人権を意識した取組を実施する。	・全ての教育活動を通じて、人権教育を推進するための職員研修を実施し、生徒の人権教育につなげる。 ・朝読書等で活用できるよう、心を守る図書についての紹介を行う。	B	・各教科の取組を共有したり、成果をまとめたりといった活動は不十分だったが、各教科、科目における人権目標を定め、総合的な人権感覚を育てる取組を行うことができた。 ・図書委員と連携し、ストレス緩和の書籍や LGBTQ に関する書籍の特設コーナーを作成し、全校集会等で生徒に周知した。
いじめの防止等	いじめの未然防止	いじめを許さない集団の育成	・生徒主体の取組の推進による情報モラル教育の通年に渡る取組を実施する。	・生徒のいじめに対する認識の感度を向上させるために以下の取組を実施する。 ・「いじめを許さない宣言文」や標語等の作成を行なう。 ・朝読書におけるいじめ関連図書読書を実施	B	・「いじめを許さない宣言文」を生徒総会で紹介し、各教室に掲示した。 ・図書委員と連携し、いじめや差別問題に関する書籍の特設コーナーを作成し、全校集会等で生徒に周知した。 ・校内、校外の相談窓口に関する携行用案内カードを作成し、全校生徒

				する。 ・各種アンケートや面談週間、校内相談体制の積極的な案内を行なう。		に周知、配付した。 ・1，2 学年を対象に、SOS の出し方に関する授業を行い、ゲートキーパーとして他者を思いやる心の醸成に繋げた。
	いじめの発見と適切な対応	校内委員会を中心とした全職員での取組	・スクールサイン（いじめ匿名通報サイト等）の積極的周知と、いじめ事案に対する組織的認知と迅速な対応を行なう。	・面談や各種アンケート等を実施し、いじめの早期発見と速やかな事実の確認にあたる。 ・スクールサインの積極的な周知 ・学期に１回以上のいじめ防止組織会議の開催。 ・被害生徒を守り、加害生徒にも適切に対応する。	B	・学校独自のいじめに関するアンケートを毎学期実施し、面談週間中には、各担任がその情報を基に細やかな面談を行った。 ・スクールサインのサイトに QR コードからアクセスできる携行用カードを作成し、全校生徒に周知、配付した。 ・学期毎に外部専門家を招き、いじめ防止等検討委員会を開催した。 ・いじめの可能性があるトラブルについては、生徒部職員に加え、いじめ情報集約担当も聞き取りや会議に参加し、慎重な対応を行った。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育の充実	防災教育の充実	・主体的に行動し、自分の命を守る。	・クラス掲示で防災教育の情報提供を行う。 ・避難経路の確認など自助の意識を育てる。	B	・新年度すぐに、避難訓練を実施し、避難経路の確認や災害発生時の対応について考える機会を作り、自助の意識を育んだ。 ・シェイクアウト訓練や啓発資料を通して、防災に関する技能や知識を体験・学習し、日頃の防災への備えを促進した。
	地域と連携した災害時の連携体制の確立	防災教育への参加	・水俣市や地域と連携し災害に備える。	・今年度は水俣市や地域住人との合同訓練に参加し、公助や自助の意義を学ぶ。 ・職員研修を実施し、生徒の防災教育につなげる。	B	・水俣市防災フェスタに参加し、各関係機関による各種訓練や展示、防災体験コーナーを通じて、楽しみながら防災に関する意識や知識を高めた。 ・防災避難訓練時に職員、生徒全員が防災ＤＶＤ視聴し、防災についての知識を高めた。
特別支援教育	特別支援教育の理解と推進	教職員の専門性の向上	・合理的配慮を要する生徒に対する知識を習得する。	・合理的配慮を要する生徒の特性を理解するための職員研修を行う。	B	・8 月の職員研修で、熊本県就学等支援アドバイザーによる「特別な支援を必要とする生徒の特性理解と支援の在り方」をテーマとした研修を行った。
	特別支援教育の理解と推進「SDGs 未来都市」の一員としての自覚に基づいた	特別な支援を必要とする生徒の把握と適切な対応	・合理的配慮を要する生徒の把握と、SC、SSWの効果的な活用を行う。 ・「個別の教育支援計画」の作成と活用。引継ぎを行う。	・新入生の情報を早期に把握するため、新入生保護者に対して「保護者の気付きアンケート」を実施する。 ・個別の教育支援計画を引き継いだ新入生は１学期に全員SCの面談を行う。	B	・新入生の「保護者の気付きアンケート」を実施し、情報把握・整理・関係職員への周知をした。 ・入学式前に支援対象生徒の保護者・関係職員で面談を行い、職員研修で情報周知を行った。保護者の了承を得て、支援対象生徒とSCの面談を行った。 ・生徒理解研修を３回行った。支援

	環境教育の推進			・生徒理解研修を３回実施し、生徒情報を職員間で共有する。 ・個別の教育支援計画は、進路先に基本的には全員引継ぎをする。	B	対象生徒について教科担当者会を実施し、個別の指導計画の評価・計画を行った。 ・専門の医療機関とつながりのない支援対象生徒について、保護者と面談を行い医療機関の受診へつなげ、療育手帳取得、ハローワークと連携し、就職活動を行った。
環境・安全教育の推進		持続可能な環境活動の展開	・生徒の主体性を育む取り組みを実施する。	・委員会メンバーが中心となって、学校版環境ＩＳＯ宣言項目に基づいた活動に取り組む。エコスクールＤａｙを毎月実施し、環境への意識や行動について自分自身で振り返り、改善する。	B	・「エコスクールDay」を毎月実施し、クラスごとの取り組み状況を確認した。毎月行うことで、マイバッグやマイボトルの持参やゴミの減量を意識することに繋がっている。生徒たちの目標達成率は高く、ほとんどのクラスで９０％に達している。
	「SDGs未来都市」の一員としての自覚に基づいた環境教育の推進 健康で安全な学校生活の推進	持続可能な環境活動の展開 健康な学校生活の推進	・環境美化委員会の活動を充実させる。	・地域や企業と連携したＳＤＧｓへの取組を生徒職員一丸となって取り組み、その成果を行事等で発表する。	B	・企業と連携したコンタクトレンズのからケース回収などを行っている。これらの活動について文化祭で発表し、生徒たちの意識を高めることができた。
			・基本的な感染対策の呼びかけと、咳エチケットについて指導する。	・手指消毒の継続や換気の徹底、咳エチケットについて集会等で指導する。	B	・学期末の集会で呼びかけを行うことができなかったが、保健部便りを作成し、手指消毒、咳エチケットについて説明や注意喚起を行った。
	健康で安全な学校生活の推進	安全な学校生活の推進	・職員、生徒の安全意識の向上と、校内における事故リスクを軽減させる。	・年に２回、安全点検を実施し、早急に危険箇所の改善を行う。 ・運動中の水分補給の指示や、運動時のマスク着用について注意喚起を適宜行い、熱中症のリスクを減らす。	B	・８月に一度実施し、２回目は２月に実施予定である。安全点検を行ったことで、危険箇所の共有、改善に繋げることができた。 ・猛暑が続いたため、マスクを着用しながら運動を行う生徒はほとんど見られなかったが、適宜注意喚起を行った。また、熱中症対策として、適切な活動時間など運動部活動顧問を中心に注意喚起を行った。

４ 学校関係者評価

【感想・意見等】

（１）学校評価アンケート結果（学校運営協議委員）

・学校の取組に関する各項目の質問に対して、各委員の皆様から98.8%の肯定的な評価(A/B)をいただいた。

（２）主な意見等

・地元の熊本大学への進学を期待したい。
・県内の就職を増やす取組の一環として、水俣市としても市のホームページ等をとおして学校に協力していきたい。
・生徒には地元の高校（水俣高校）を出てから県外等へ出るという意識を持たせることが大切である。大学卒業後に地元企業等に就職する人材を育成してほしい。
・交通指導に関して、学校周辺の住民からの苦情もあるため、引き続き指導を徹底していただきたい。
・地元の小中学校に出前授業をしていただき感謝している。できれば、総合的な探究活動等で使用される資料の貸し出しを小中学校の行事の際にお願いしたい。
・体験入学では、もっと多くの学科体験ができると中学生の進路選択の幅が広がると思う。
・水俣アカデミア事業には多くの生徒を参加させていただきありがたい。しかし、学力向上のため、探究活動だけでなく、自学の習慣を身につけさせるバランスが必要である。
・水俣市の国際交流事業（オーストラリア姉妹都市との３０周年記念）に関して、来年度から生徒にオンライン交流等で協力をお願いしたい。
・小中学校ではプログラミング教育が必修となっているが、専門の教員がいないため、水俣アカデミアで協力できないかを検討している。
・水俣高校の生徒のイメージは「挨拶をよくしてくれる生徒」である。

５ 総合評価

（１） 学校評価アンケート結果

【各項目昨年比】※「よくあてはまる」「やや当てはまる」の割合

① 生徒　（２５項目）：１９項目プラス、　６項目マイナス
② 保護者（２６項目）：　５項目プラス、２１項目マイナス
③ 職員　（２７項目）：　８項目プラス、１９項目マイナス

【昨年と比較して、特に差が大きかった項目（単位：%）】

① 生徒

・「本校では教え方が工夫されていて、授業が分かりやすい」（+8.3）
・「生徒の読書の習慣が身についている」(+4.0)
・「本校では将来の進路について考える機会が多く、内容も充実している」(+5.9)
・「本校では基本的生活習慣や社会のルール、マナーをしっかり指導している」(+4.0)
・「本校では人権教育を適切に行い、いじめや差別を許さない学校づくりに努めている」(+3.2)
・「本校は『命を大切にする心』を育む教育を行っている」(+6.5)

② 保護者

・「本校の体育大会や文化祭などの行事は充実している」(+5.8)
・「本校は生徒の学力向上のために、課外や個別指導など積極的に取り組んでいる」(-7.0)
・「生徒の読書の習慣が身についている」(-8.5)
・「本校は生徒の進路目標達成のためにしっかりと指導を行っている」(-5.6)
・「本校では進路選択のための情報がきめ細かく生徒、保護者に提供されている」(+5.3)
・「本校は『命を大切にする心』を育む教育を行っている」(-6.7)
・「本校の先生は生徒の悩みや相談に親身に応じてくれる」(-5.3)
・「本校では生徒の健康や安全面に十分な配慮がされている」(-4.6)

③ 教職員

・「本校は生徒の学力向上のために、課外や個別指導など積極的に取り組んでいる」(-6.5)
・「生徒の読書の習慣が身についている」(-10.8%)
・「本校は二重ロック指導や交通安全指導を適切に行っている」(-4.8)
・「本校は『命を大切にする心』を育む教育を行っている」(-7.8)
・「本校の先生は生徒の悩みや相談に親身に応じてくれる」(-6.4)
・「本校の施設、設備は整備され、安心いて学校生活を送ることができる」(-4.8)
・「業務量の軽減を目指し、ICT 等を活用した業務の効率化を意識し、超過従事時間の削減に取り組んでいる」(-22.0)

（２）本年度の重点目標について

①健全な心身の育成

今年度はコロナ禍以前の行事や取組ができるようになり、生徒が生き生きと活動できる場が増加した。体育大会や文化祭等の行事を通して生徒会を中心に生徒たちの精神面の成長が見られた。また、外部講師による薬物乱用防止講話や人権教育講演会等を開催し、生徒の意識の高揚を図った。全職員が定期的に研修を行い、生徒支援の視点で生徒に接することで、生徒の心身のストレスや困り感の解消に取り組んだ。スクールサインへの投稿や SNS 等での誹謗中傷は殆どなく、スクールカウンセラーやいじめ防止対策委員会等を活用しながら、人権教育主任を中心に生徒の SOS に組織で対応する体制ができた。

②確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実

観点別評価が定着しつつあり、生徒の主体的な学びにつながっている。また、公開授業や研究授業、スーパーティーチャー活用等を通して教科指導力を向上させた。今年度から朝課外が廃止され、各教科の演習量の減少が懸念されたが、今年度から導入した学習アプリ「Classi」を活用しながら課題等を工夫し学力向上を図った。進路実現については、就職関係では１０月には殆どの生徒が内定を頂いたが、県内就職率が４３％程度であり、今後の課題である。進学に関しては、総合型受験の国公立大学等の合格率が昨年より減少したこともあり、今後は３年間を見通した教科指導や受験対策について進路指導部と各学年・各教科が連携し、組織全体で検討していく必要がある。

③ＳＧＨ事業の効果的な継承とグローバルリーダーの育成

総合的な探究の時間（ＳＧＨ事業からの継承について）は、地域の研究機関と協力関係を築き、「みなまた MOYAIST」を目標に掲げ、グローバルリーダーの育成を目指した。国際交流については、今年度はコロナ禍の制限もなく海外からの留学生と直接交流をしたり、水俣市と連携しながら日越大学(ベトナム)への訪問を実施したりすることができた。また、スロベニアやフィリピン、インドネシア等との生徒と引き続きオンラインでの交流を行った。機械科の取組である鳥獣被害対策「イノシカハンターズ」や電気建築システム科建築コースの水俣環境アカデミアと連携した「Wood Connect Project」の研究活動では、地元企業等と連携しながら、地域の活性化に貢献した。また、電気建築システム科電気コースを含め、地元の小中学校への出前授業等を行い、本校の魅力を発信することができた。

④保護者や地域社会に信頼される学校づくり

今年度から学校保護者連絡システム「すぐーる」が導入され、欠席連絡等がスムーズになり、保護者だけでなく職員の負担も軽減された。また、学校ホームページや学年通信等を通して学校の様子をタイムリーに伝えることができた。PTAの活動には生徒や職員も協力する体制ができており、水俣市唯一の高校として信頼関係を築いている。さらに、総合的な探究活動の時間を利用しながら、校外での活動を積極的に実施しながら地域に貢献する取組を行った。特に今年度は半導体関連企業との連携をとおして、工業科だけでなく、商業科や普通科の生徒にも体験学習を実施した。

６ 次年度への課題・改善方策

（１）学校経営

来年度からは半導体関連企業や医療機関、及び大学や行政等と連携した本校独自の取組を行い、進学や就職の実績向上につなげていく予定である。今後は、このような連携事業を継続させながら質の向上を図り、生徒募集につなげ、将来地元に還元できる生徒をいかに増やしていくかが課題である。また、生徒の体験学習や海外交流等の機会をいかに増やしていくか、さらに、参加費や旅費等をどのように補助していくかなど、学校だけでなく関係外部機関、同窓会やPTA等とも連携しながら検討していく必要がある。

（２）授業改善と学力向上

学校評価アンケートの授業に関する項目においては、生徒の評価が昨年より８．３ポイント上昇しており、今後も「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。また、定着しつつある観点別評価をさらに充実させる。朝課外廃止による各教科の演習量等を補う取組に関して各教科で検討し、ＩＣＴ等を活用しながら、生徒個人の主体的で深い学びができるように学習環境を整える。

（３）キャリア教育の充実

普通科を中心とした進学実績、他学科を中心とした就職実績（特に県内への就職率）を向上させるために、早い段階での進路目標の設定を行い、３年間を見通した大学受験や就職試

験に対応できる学力の定着、及びキャリア教育を充実させる。また、インターンシップ等の体験活動の充実を図り、職業観・勤労観を育み、生徒一人一人が目的意識を持って日々の活動に取り組む態度を育成する。

（４）生徒指導の充実

日々のホームルーム、交通講話等を通して登下校のルールやマナーの指導を徹底し、事故防止につなげる。また、自転車ヘルメットの着用努力義務など新たな課題に対応する。また、生徒の SOS の早期発見のために、学期ごとの面談週間、いじめアンケート、スクールカウンセラーの活用等を充実させ生徒や保護者に寄り添った対応を行う。従来の校内の規定等を見直し、時代の流れに沿って改善を図る。

（５）SGH 継承と地域連携の推進

「総合的な探究の時間」の活動や専門学科の「課題研究」の探究活動の取組を検証し、SDGsの目標のもと、国立研究施設や自治体と連携・協働した環境教育の更なる推進、及び海外の大学等との交流を通して、グローバルリーダーの育成を目指す。また、行政や関係機関、及び半導体関連企業や連携、医療機関との連携を強化し、学校の新しい魅力を発信する。